

市電の ふるさと



豊平館と菖蒲池

半鋼製 2 軸ボギー電動客車
(昭和24年 6 月～昭和46年12月)



市電美術館



'96 中央区民まつり

市電と綱引き

約3万人を集めた市電のふるさと'96中央区民まつり(8/25)は盛況のうちに幕を閉じました。昨年引き続き行われた電車事業所でのイベント、「市電と綱引き」、「市電体験運転」は今年も大人気。工場の見学なども人気を集めました。



市電体験運転



市電と綱引き優勝チーム

山鼻小4年1組



「市電の絵コンクール」には、中央区内の幼稚園児、小学生から313点の絵が寄せられました。その中から選び抜かれたのがこれらの優秀作品。

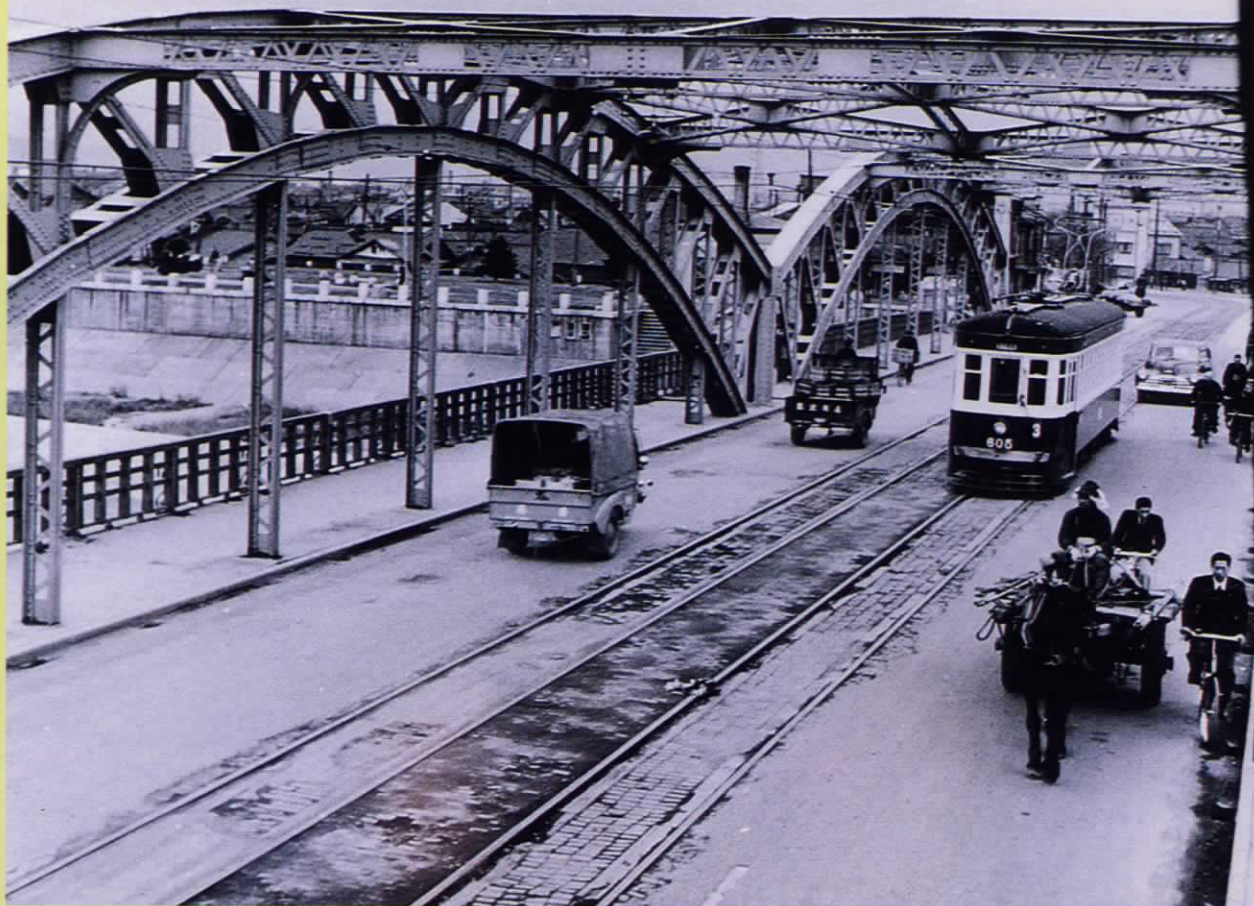
3月10日(月)から16日(日)までの1週間、ギャラリー電車として営業運転中の車両に展示されました。

市電の絵作品コンクール

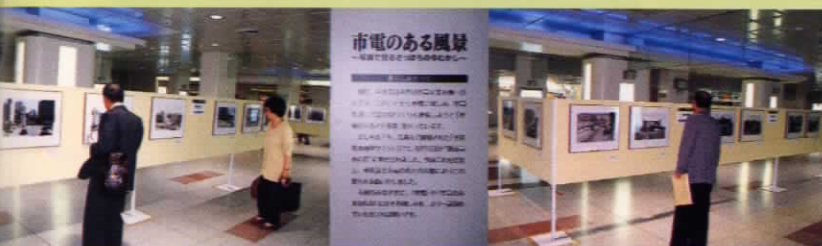


豊平橋

明治以降何度も水害に遭い、流出架け替えを繰り返して来た豊平橋。大正十三年には、アーチ三連の鉄橋が完成し、市電が豊平川を渡りました。道内三大名橋と称されたこの橋も、昭和四十年に解体され、現在の橋に生まれ変わっています。



▲豊平橋（昭和28年）（札幌市写真ライブラリー所蔵）



路面電車の日（6/10）を記念して、パネル展「市電のある風景～写真で見るさっぽろの今むかし」（6/8～14）を地下街オーロラタウンで開催。

多くの市民が足を止め、懐かしい風景と、今の札幌の姿とを見比べ、市電のある街なみへの親しみを深めていました。



▲大正15年の札幌の街なみ（南1条西2丁目から西方面撮影）

▶昭和46年の駅前通り（札幌市写真ライブラリー所蔵）



駅前通り・南一条通り

48年3月まで、駅前通りにも市電が走っていました。現在終点となっている西4丁目とすすきのの両停留所を結び、環状運転が行われていました。また、西4丁目から創成川を渡り、一条橋に至る路線もありました。

現在、再び市電の環状化が話題となっています。



▶昭和46年の南1条通り、創成橋付近（札幌市写真ライブラリー所蔵）



◀現在の西15丁目停留所（横井晶氏撮影）



▶現在の電車事業所（南21条西15丁目）付近（横井晶氏撮影）



◀南21条西15丁目の昭和35年の様子

▲昭和29年の南1条西15丁目（札幌市写真ライブラリー所蔵）

市電のある風景

写真で見るさっぽろの今むかし



三越前のラッシュアワー

地下鉄が開通する昭和46年まで、市電は市内の基幹交通機関でした。
朝のラッシュ時の三越前停留所は、このような賑わいを見せていました。
最盛期の昭和39年、総延長は約25kmに達し、一日約28万人の乗客を輸送していました。

◀三越前（南1条西4丁目）の朝のラッシュ風景（昭和40年）



▲大正9年の道庁前（北3条西4丁目）

市電 まめ知識

ちんちん電車

昔の人は、市電のことを「ちんちん電車」と呼び親んでいました。だれが言い出したかは分かりませんが、いかにも庶民的な表現です。

ここでは、その呼び名の由来についての二つの説を紹介し、「ちんちん」という、音に秘められた意味についても探ってみることにします。

第一の説

車掌と運転手が合図に鳴らした信号音がもとになっている

昔は、運転台の上に打ち金があって、そこからひもを引っ張って車掌が「動きまゐす、チンチン」とやったそうです。「チンチン」と二つ鳴らすのが「発車」、「チン」と一つ鳴らせば「止まれ」の合図でした。

また、昔はよく、走っている電車から飛び降りる人がいました。そんな時「チンチンチン」と三つ鳴らせば「急停車」を意味していました。その鳴らし方には感情がこもっていて、車掌と運転手の呼吸がピッタリと合っていたそうです。

さらに、合図は運転手からも送るこ

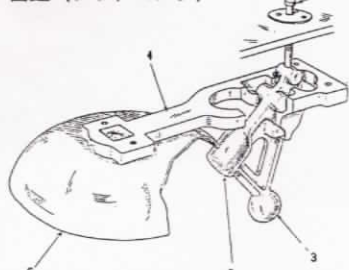
とができ、車掌が送る場合とは違う意味を持っていました（下図参照）。

第二の説

運転手が鳴らした警鈴（フットゴング）の音がもとになっている

運転手の足元のブランジャー（ペダルの部分）を踏むと、床下の鐘が「チンチン」とか「カンカン」と鳴ります。これが、フットゴング（イラスト参照）です。

警鐘（フットゴング）



1. ブランジャー（踏子）
2. 打金
3. 鐘
4. 取付座
5. ゴング（ベル）

フットゴングは、通行人に対する警鈴として使われたものです。札幌電気軌道株式会社から、札幌市交通局に移



運転手

車掌

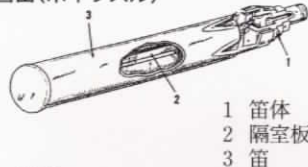
「運転台に来てくれ」
「動いていいか」
「通過していいか」
「集電器を下げろ」
「車掌のブレーキもかけろ」
(ハンドブレーキ)

チン（1つ）
チンチン（2つ）
チンチンチン（3つ）
チンチンチン…（乱打）

「次の停留所で止まれ」
「発車できる」
「降りる人はいない」
「何かあるから停車せよ」
「追突の危険があるので急停車（急発車せよ）」

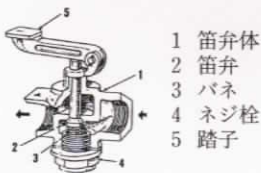
管された昭和二年。当時、大部分を占めていたハンドブレーキ（ハンドルのようなものを手で動かす）方式の車両で使われました。

警笛（ホイッスル）



- 1 笛体
- 2 隔壁板
- 3 笛

笛弁



- 1 笛弁体
- 2 笛弁
- 3 パネジ
- 4 パネジ栓
- 5 踏子

22号車も展示 市電のことがいっぱい 交通資料館



市電の昔の姿にふれてみたい、そんな願いがかなうのがココ。

交通資料館がオープンしたのは、昭和五十年二月。それまでに収集した市営交通に関する資料と電車、バス、地下鉄などの旧型の車両を地下鉄高架下の空き地を利用して展示しています。

電車関係では、木製二十二号車（木製二軸電動客車）をはじめ、市電全盛時に活躍した連接車（鋼製二連々接客車）など客車六両や、除雪車三両が屋外展示場があり、屋内展示室には、電車の写真パネルや、乗車券、市電の部品や備品などが展示されています。是非一度お立ち寄りください。

インフォメーション

場所 札幌市南区真駒内東町一
(地下鉄自衛隊前駅南側)
開館日 五月から九月までの日曜
・祝日と雪まつり期間
開館時間 午前十時から午後四時まで
入館料 無料

消えていった ちんちん電車

昭和二年に購入した車両から、電車のブレーキは、ハンドブレーキからエアブレーキ（空気圧によるブレーキ）に変わり始め、昭和三十四年には、営業車の全部がエアブレーキ方式となり



市電とともに歴史を刻んできた旧札幌経済高校（立命館慶祥高校）が平成9年春に移転。3月9日には、57年の歴史を振り返る、「さよなら経高キャンパス祭」が催され、花電車が運行しました。

さよなら旧経済高校
キャンパス祭で



ました。

それと同時に、フットゴングがホイッスル（警笛・右下イラスト参照）に変わり、台上と床下の二つの鐘がそろった営業車両は姿を消しました。しかし、一部の電車は、散水車や貨物電車に改造されました。フットゴングは、これらの非営業車に残り、昭和

市電トピックス

かつての札幌市電の花形

連結車を 岐阜で発見！



（市電の会員早川淳一氏撮影）

昭和51年、札幌市交通局から名古屋鉄道へ、A830型の連結車3編成が売却されました。

そのうちの1編成が、平成8年に冷房化改造が行われ、もう1つの編成と合わせ、現在も名鉄美濃町線で活躍しています。



ローレル賞も受賞した連結車

四十一年まで使われました。ひもで鳴らす鐘は、やがて電鈴に代わりました。四十六年に導入された、電車の完全ワンマン化と、五十一年の連結車の運行中止により、車掌がいなくなるとともに「チンチン」の音も消えたのです。

会員募集

市電の会では、賛助会員を募集しています。市電の好きな方なら、個人でも法人やサークルなどの団体でも入会できます。

入会金は、個人千円、団体一万円です。会員には、会員バッジを差し上げるほか、会報「市電のふるさと」をお送りします。

入会をご希望の方は、中央区役所や中央区内の各連絡所でお渡ししている入会申込書に入会金を添えて、事務局までご持参ください（郵送でも結構です）。

入会の申し込みとお問い合わせは、市電の会事務局（中央区南三条西十一丁目・中央区役所総務課企画調整主査） ☎（231）2400 内線219へ。

